

参考資料

(本書は米国時間 2016 年 4 月 26 日に米国で発表済みの英文プレスリリースの和訳です。
解釈に相違が生じた際には、英語版を基準とします)

2016 年 4 月 27 日

Aflac Incorporated は 2016 年度第 1 四半期の業績を発表 2016 年度の 1 株当たり事業利益及び販売の見通しを確認 2016 年度第 2 四半期現金配当を宣言

Aflac Incorporated (以下、「当社」)は本日、2016 年度第 1 四半期の業績を以下のとおり発表しました。

当四半期の収益合計は、円高ドル安の恩恵を受け、前年同期の 52 億ドルから 4.3%増加し、55 億ドルとなりました。当期純利益は、前年同期の 6 億 6,300 万ドル(希薄化後 1 株当たり 1.51 ドル)から 7 億 3,100 万ドル(同 1.74 ドル)となりました。

有価証券取引及び減損による税引後資産運用実現損益については、前年同期の当期純利益には 4,000 万ドル(実現損とのネット。希薄化後 1 株当たり 0.10 ドル)の実現益が含まれていたのに対し、当四半期の当期純利益には、5,000 万ドル(実現損とのネット。希薄化後 1 株当たり 0.12 ドル)の実現益が含まれていました。当四半期の資産運用実現益(実現損とのネット)には、税引後減損損失 1,000 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.02 ドル)が含まれていました。当四半期の日本社の一部のドル建て投資に関連するヘッジ費用は、税引後ベースで 2,900 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.07 ドル)でした。当四半期のその他のデリバティブ及びヘッジ活動による税引後資産運用実現益(実現損とのネット)は 1,200 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.03 ドル)でした。これらに加えて、当期純利益には、その他及び非経常的損益からの 2,800 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.07 ドル)の税引後損失が含まれていました。

当社は、当社事業に収益をもたらす諸要素について理解するために、事業利益(米国会計基準 GAAP 外の指標)の分析が極めて重要であると考えています。事業利益とは、有価証券取引、減損、デリバティブ及びヘッジ活動から生じた資産運用実現損益ならびにその他及び非経常的損益を除外し、社債等に関連した支払金利を含む、当社事業から得られる利益です。当社のデリバティブ活動は、主として当社の運用ポートフォリオに係る為替リスク及び金利リスクをヘッジすることを目的としたものであるとともに、一部の社債に係る為替リスク及び将来の円建ての予測キャッシュフローに係る為替リスクを管理することを目的としています。有価証券取引、減損、デリバティブ及びヘッジ活動から生じる資産運用実現損益ならびにその他及び非経常的損益は、全般的な経済情勢など外部環境が大きく影響すること、あるいは当社の保険事業に直接関係しない数少ない取引に関連するものであることから、当社保険事業の基盤や傾向を必ずしも正確に反映していないため、当社では、保険事業の財務業績を評価するにあたっては事業利益を用いています。

さらに、アフラックの事業全体に占める日本社の割合が非常に大きいため、日本の機能通貨である円から米ドルへの換算が事業利益に与える影響を理解することも同様に重要であると考えています。当社は、日本社の損益計算書の作成にあたっては、当該期間の平均円/ドル為替レ

トを、また貸借対照表の作成にあたっては、期末の円／ドル為替レートを、それぞれ使用していますが、利益送金、再々保険取引の決済及び日本社のドル建て投資プログラム等を除いて、実際に円貨をドル貨に換金することはありません。したがって、当社は、外貨の換算は、当社や株主に対して実際に経済的な意味を持つものというより、むしろ財務諸表作成の目的に利用するものと考えています。また、為替変動によっては当社事業の成長率が歪められてしまうため、当社は、財務諸表を使って当社事業を評価する場合、為替変動の影響を除外した財務業績も評価すべきであると考えています。本リリースの最後に、為替変動の影響を含めた場合とそれを除外した場合の主な業績数値の比較表を、その影響を示すために掲載していますので、ご参照ください。

当四半期の平均円／ドル為替レートは、前年同期の 119.16 円から 3.3%円高ドル安の 115.35 円となりました。当四半期の事業利益は、前年同期の 6 億 7,800 万ドルから、7 億 2,600 万ドルとなりました。当四半期の希薄化後 1 株当たり事業利益は、前年同期に比べて 12.3%増加し、1.73 ドルとなりました。当四半期の事業利益には、退職適格従業員についての株式報酬費用の早期認識分として、税引後で 800 万ドル(希薄化後 1 株当たり 0.02 ドル)の調整が含まれていました。為替レートが円高ドル安に推移したことで、当四半期の希薄化後 1 株当たり事業利益は、0.03 ドル増加しました。円高ドル安の影響を除いた希薄化後 1 株当たり事業利益は、10.4%増加しました。

運用資産及び現金・預金合計は、2015 年 12 月 31 日現在の 1,059 億ドルから 2016 年 3 月 31 日現在では 1,143 億ドルとなりました。

当四半期、当社は 6 億ドル相当(1,020 万株)の自己株式を取得しました。2016 年 3 月 31 日現在、当社の自己株式取得承認枠は、3,820 万株となっています。

株主持分は、2015 年 12 月 31 日現在が 177 億ドル(1 株当たり 41.73 ドル)であったのに対し、2016 年 3 月 31 日現在では 200 億ドル(1 株当たり 48.22 ドル)でした。株主持分に含まれる保有有価証券及びデリバティブに係る未実現益(ネット)は、2015 年 12 月 31 日現在が 30 億ドルであったのに対して、2016 年 3 月 31 日現在では 47 億ドルでした。当四半期における平均株主持分に対する利益率は、年率換算で 15.5%でした。事業ベース(当期純利益に含まれる資産運用実現損益(ネット)及び株主持分に含まれる運用資産及びデリバティブに係る未実現損益を除く)で見ると、当四半期における平均株主持分に対する利益率は、年率換算で 19.3%(円高の影響を除くと 18.5%)でした。

日本社

当四半期、円ベースで見ると、保険料収入は 0.1%増加しました。投資収益(ネット)は 1.7%減少しました。当四半期の日本社の投資収益は、前年同期とほぼ同じく、その約 48%がドル建てであったことから、この投資収益の減少は、主として円高ドル安の影響によるものです。当四半期の日本社の収益合計は、前年同期比 0.2%減少しました。当四半期の税引前事業利益率は、前年同期の 22.1%から 22.0%へとわずかに低下しました。円ベースの税引前事業利益は、報告ベースでは 0.8%減少しましたが、為替変動の影響を除けば、0.2%の増加でした。

当四半期の日本社のドルベースでの成長率は、円高ドル安の影響により、押し上げられました。当四半期の保険料収入は 3.3%増加し、32 億ドルとなりました。投資収益(ネット)は 1.4%増加し 6 億 2,200 万ドルとなりました。収益合計は 3.0%増加し、38 億ドルに、税引前事業利益は 2.4%増加し 8 億 3,800 万ドルとなりました。

当四半期の新契約年換算保険料は15.5%増の312億円(2億7,100万ドル)となりました。当四半期のがん保険と医療保険を含む第三分野商品の販売は、1.0%増加し、183億円(1億5,860万ドル)となりました。当四半期のWAYSと学資保険を含む第一分野商品の販売は、45.0%増加し、129億円(1億1,230万ドル)となりました。

米国社

当四半期の米国社の保険料収入は2.1%増加し、14億ドルとなりました。投資収益(ネット)は5.1%増加して1億7,400万ドルとなりました。収益合計は2.3%増の15億ドルとなりました。当四半期の税引前事業利益率は、前年同期の18.9%から21.5%に上昇しました。税引前事業利益は、前年同期比16.6%増の3億3,200万ドルとなりました。

当四半期の米国社の新契約年換算保険料合計は3.7%増加し、3億2,800万ドルとなりました。また、当四半期の継続率は、前年同期の76.7%から76.6%となりました。

現金配当

取締役会は、2016年度第2四半期支払いの四半期現金配当を1株当たり0.41ドルとすることを発表しました。この現金配当は、2016年5月18日の営業時間終了時点の登録株主に対し、2016年6月1日に支払われます。

今後の見通し

当四半期の当社の業績について、当社会長兼最高経営責任者であるダニエル・P・エイモスは次のように述べています。

「当四半期の当社の財務業績全般については、喜ばしく思っています。当社の最大の利益貢献部門である日本社は、当四半期、円ベースで堅調な財務業績を挙げました。当四半期の第一分野商品の販売は増加しましたが、これは当社の予想に沿ったものでした。当社は第2四半期の後半、さらに様々な施策を実行に移しますが、これにより、本年度下半期の第一分野商品の販売は、大幅に減少するものと予想しています。日本社の第三分野商品の販売は、当四半期1.0%増加しましたが、2月に申し上げましたように、2015年度の非常に強い販売実績を受け、2016年度通年では、一桁台半ばの減少率を予想しています。まだ年度の初期段階ではありますが、第1四半期終了の時点では、第三分野商品の販売は予想を上回るものとなっています。引き続き当社は、第三分野商品販売の長期の複利成長年率は4%から6%の間となるものと確信しています」

「当四半期、財務業績及び販売において、米国社は堅調な実績を挙げました。専属募集人及びブローカー向けに当社が実行した経営インフラの改編が、今後のより大きな長期的な成長機会の礎となっているものと、引き続き当社は確信しています。当四半期の販売成長率が3.7%となったことで、米国社の2016年度通年の販売成長率の目標である3%-5%増へのひとつの基準値を固めることとなりました。ここで、米国社の通年の販売目標の達成に向けて、当社は第4四半期の販売により多くを依存していることを思い起こしていただきたいと思えます」

「引き続き当社は、ご契約者及び社債保有者のために高い自己資本比率を維持することにコミ

ットしています。資本水準が安定し続けるという前提で、日本社の強力な財務力が、2016年暦年の米国に対する利益送金を1,200億円から1,500億円の範囲で実行ならしめるものと、当社は確信しています。このことは、上半期に前倒しで実行を予定している、2016年度における14億ドル相当の自己株式取得計画を強化するものです」

「当社の年度目標は、2015年度の平均為替レートである1ドル120.99円の前提の下で、6.17ドルから6.41ドルの希薄化後1株当たり事業利益を計上することであることを、ここに重ねて申し上げます。仮に第2四半期の期中平均円/ドル為替レートが1ドル105円から115円で推移した場合、第2四半期の希薄化後1株当たり利益は約1.55ドルから1.82ドルの間になるものと当社は予想しています。ここで思い起こしていただきたいのは、著しく低い金利水準と市場変動の再上昇の中で、慎重なリスク許容度を保ちつつ、キャッシュ・フローを魅力的な利回りで運用することは困難であるということです。また、通常、第1四半期の保険金給付金比率が他の四半期に比べてより有利であることを勘案すると、2016年度は、日米ともに引き続き保険金給付金比率が強いものになるものと予想しています。世界で最も優れた二つの保険市場において、当社は良いポジションにあり、ご契約者に対する約束を着実に果たしつつ、1株当たり利益目標達成のため、当社は懸命に努力を重ねています」

アフラックについて

当社は、ご契約者が病気または怪我をした時に給付金を現金で迅速にお支払いします。60年にわたって、当社の商品は、ご契約者が経済的な負担を抱えずに回復に専念する機会を提供してきました。当社は米国では職域における任意加入保険販売 No.1 の会社です。先駆的な「ワン・デイ・ペイ」の取り組みにより、米国社は、有効な給付請求の受付、審査手続、承認及び支払いを1営業日で行うことができます。日本では、アフラックは医療保険・がん保険の最大手で、4世帯に1世帯がアフラックの保険に加入しています。当社の個人保険及び団体保険は、世界で5,000万人以上の方々に保障を提供し、お役立ていただいています。『Ethisphere』誌は10年連続で当社を「世界で最も倫理観の高い企業」の1社に選出しています。また、2016年、『フォーチュン』誌は、当社を18年連続で「全米で最も働きがいのある企業100社」に選出するとともに、15回目となる「世界で最も賞賛すべき企業」の1社にも選出、当社を生命保険及び医療保険分野のイノベーション部門において2年連続で第1位にランクしました。2015年、アフラックのコンタクトセンターは、その電話応対チャネルにおいて、J.D.パワー社から「サービスに対する際立った顧客体験」の認定を受けました。Aflac Incorporatedはフォーチュン500社に入っており、ティッカー・シンボルAFLとしてニューヨーク証券取引所に上場しています。当社及び「ワン・デイ・ペイ」に関するさらに詳しい情報は、aflac.com 又は espanol.aflac.com をご覧ください。

当四半期の業績数値の補足資料(FAB Supplement)は、aflac.com「Investors」ページから入手可能です。

当社は、当四半期業績報告の電話会議の模様を2016年4月27日(水曜日)午前9時00分(米国東部夏時間)にaflac.com「Investors」ページ上で公開します。

Aflac Incorporated およびその子会社連結損益計算書(抜粋)

(単位:百万ドル。ただし、株式数および1株当たりの数字を除く—無監査)

3月31日に終了した3ヶ月間:

	2016年	2015年	増減率
収益合計	5,451	5,226	4.3%
保険金給付金	3,025	2,952	2.5%
新契約費及び事業費合計	1,309	1,261	3.7%
税引前当期純利益	1,117	1,013	10.4%
法人税等	386	350	
当期純利益	731	663	10.2%
基本1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.75	1.52	15.1%
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.74	1.51	15.2%
1株当たり当期純利益計算に用いた普通株式数(単位:千株)			
基本	418,748	437,306	-4.2%
希薄化後	420,920	439,927	-4.3%
1株当たり現金配当(単位:ドル)	0.41	0.39	5.1%

Aflac Incorporated およびその子会社連結貸借対照表(抜粋)

(単位:百万ドル。ただし、株式数を除く—無監査)

3月31日現在:

	2016年	2015年	増減率
資産:			
運用資産および現金・預金	114,320	108,711	5.2%
繰延新契約費	8,929	8,319	7.3%
その他の資産	4,517	4,325	4.4%
資産合計	127,766	121,355	5.3%
負債および株主持分:			
保険契約準備金	94,128	85,564	10.0%
社債等	4,984	6,236	-20.1%
その他の負債	8,633	10,918	-20.9%
株主持分	20,021	18,637	7.4%
負債および株主持分合計	127,766	121,355	5.3%
期末発行済普通株式数(単位:千株)	415,203	433,771	-4.3%

事業利益と当期純利益の調整

(単位:百万ドル。ただし、1株当たりの数字を除く—無監査)

3月31日に終了した3ヶ月間:

	2016年	2015年	増減率
事業利益	726	678	7.1%
調整項目(税引後):			
資産運用実現(損)益:			
有価証券取引および減損	50	40	
外貨建投資に関連するヘッジ費用	-29	-9	
その他のデリバティブおよびヘッジ活動の影響	12	-34	
その他及び非経常的(損)益	-28	-12	
当期純利益	731	663	10.2%
希薄化後1株当たり事業利益(単位:ドル)	1.73	1.54	12.3%
調整項目(税引後):			
資産運用実現(損)益:			
有価証券取引および減損	0.12	0.10	
外貨建投資に関連するヘッジ費用	-0.07	-0.02	
その他のデリバティブおよびヘッジ活動の影響	0.03	-0.08	
その他及び非経常的(損)益	-0.07	-0.03	
希薄化後1株当たり当期純利益(単位:ドル)	1.74	1.51	15.2%

為替変動の業績への影響¹
(主要項目の前年同期比増減率—無監査)

2016年3月31日に終了した3ヶ月間:

	為替変動の 影響を含む	為替変動の 影響を除く²
保険料収入	3.8%	1.6%
投資収益(ネット)	2.4%	1.1%
保険金給付金および事業費合計	2.3%	0.1%
事業利益	7.1%	5.2%
希薄化後1株当たり事業利益	12.3%	10.4%

¹数値は本書において定義した事業利益ベースで表示している。

²為替変動の影響を除外した数値は、前年同期と同様の円/ドル為替レートをを用いて算出した。

2016年度1株当たり事業利益予想

<u>円/ドル平均為替レート</u>	<u>1株当たり年間事業利益</u>	<u>対2015年度増加率</u>	<u>為替の影響</u>
105	\$6.66 - \$6.90	8.1% - 12.0%	\$ 0.49
110	\$6.49 - \$6.73	5.4% - 9.3%	\$ 0.32
115	\$6.34 - \$6.58	2.9% - 6.8%	\$ 0.17
120.99*	\$6.17 - \$6.41	0.2% - 4.1%	\$ -
125	\$6.07 - \$6.31	-1.5% - 2.4%	\$ -0.10

*実際の2015年度の年間加重平均為替レート